



## あなたを待っている子どもたちのために

第7回 「分かる・できる授業のために②」「養護教諭・栄養教諭になること  
令和5年2月21日（水）発行 仙台市教育委員会 教育センター 若手教員支援室

### よりよい授業を目指して ～第7回プレゼミナール～

2月18日（土）開催の第7回のテーマは「分かる・できる授業のために②」でした。子どもたちにとって、学校生活のおよそ8割が授業時間です。それゆえ、授業の中で、子どもたちが「分かった・できた」という達成感を十分得られることや、子どもたちが輝ける場面をたくさん設けること等が非常に大切です。今回も参加希望者の8割以上が申込をしていました。先生にとって授業が重要な仕事であることを十分理解しているあらわれでもあり、それだけ不安なところも大きいのではないかととらえています。

第7回は養護教諭・栄養教諭を対象として「養護教諭・栄養教諭になること②」も同時開催しました。総参加者数は、遠隔地在住等によるオンライン参加者を含め60名でした。

#### 1 「授業づくりのポイント・授業づくりの実際」

機種・教科別に11会場に分かれての学びでした。教材研究の在り方、授業づくりのポイント、進め方等について、講師（指導主事）の話や模擬授業を通して学ぶことができました。各会場少人数だったこともあり、対話的な学びが中心となっていました。



#### 〈受講者の声〉

- 板書の流れを書くことで授業の流れが掴める安心感を実際に体験してみて学ぶことができました。特に子どもの言葉を拾うという点では、予めこうした板書計画をしていないと、子どもの声を拾ってどうアレンジしようかという風には考えられないと思うため、子どものためにも自分のためにも分かりやすい板書案・ノート作りを心掛けたいと思いました。模擬授業を受けるときには、「大学生でもこうしてほめられると嬉しい気持ちになるんだなあ」と感じました。子どもたちであれば信頼関係が構築された先生からの誉め言葉はもっともっと嬉しいと思います。なるべく具体的に、子どもたちに響く言葉選びもできるよう、4月までに本を読むなどしたいと思いました。ありがとうございました！
- 実践的な学びができました。大学では、おおまかな項目について学ぶことが多かったのですが、より細かな指導者としての考え方やポイントを知ることができました。また、様々な方と意見交換や話し合いをすることで、自分にはない考え方を知れたり、自分の発言への意見をもらえて考えを深められたりしました。自分の専門教科の指導法について話合う機会はあまりありませんでしたが、良い学びと経験になりました。
- 私は「小学校算数」の講義を受けました。これまで、子どもたちにとって分かりやすい授業をすることができるのかとても不安でした。しかし講義を通して、自分でも授業ができそうな気持ちになりました。算数の授業は、問題に出会うところから始まり、友達などと一緒に問題解決のためにどうしたらいいのか考え、答

えを導き、最後に自分で実践するというステップで進めていくという流れを押さえることが、授業を進めるためのコツなのだと思います。算数の教材研究では、授業の流れやポイントを教師側が確実に抑えるためにも、ノート計画をしっかりと立てることが大切なのだと思います。また、ノートは子どもにとって授業を振り返ったり、学習事項を定着させたりするために欠かせない大切な記録となるということをお忘れにはいけないと思います。授業を行うにあたっての意識・心構えとしては、子どもの言葉や考えを中心に授業を進めていくこと、また子どもばかりに考えさせるのではなく、教師と子ども一緒になって考え、一緒に解決することも大切であると感じました。色々な教科がある中で特に算数を苦手とする子どもは多いですが、私の授業を受けて少しでも多くの子どもたちが、算数って楽しい、面白いと思ってもらえるような授業を目指し、これから頑張っていこうと思います。

- ロイロノートを初めて使いました。戸惑いもありましたが、現場に出たら積極的に使っていきたいです。時間をかけずに児童の書いた考えを集めたり、みんなのものを共有したりできるところが魅力的だと感じました。授業作りに関しては、まずは子どもにこうなって欲しい、と言う願いを持つこと。そしてそれを実現するために授業の構成や発問を考えること。授業内ではいいところを見つけて褒めたり、共有したりして全体を巻き込んで学びにつなげていくことが大切なのだと分かりました。私の理想は、お互いを認め合えるクラス、全員が一緒に頑張れるクラスです。そのような子どもたちを育てるため、日頃の授業に真摯に向き合っていきたいと改めて思いました。授業を通して人を育てる、と言うことを忘れないようにしたいです。
- 今回は、校種別という事で、より具体的な授業の方法であったり、子どもたちからの考えの引き出し方であったりを学ぶことが出来ました。自分の中では、「こんな授業がしたいな」と思っていたものの、中々実行に移すのが難しいと考えていましたが、「子どもたちから学習課題を引き出させるといいよ」というアドバイスも頂けて、深い学びに繋がりました。
- 模擬授業を見ることができ、とても学びになりました。「失敗してもいい」と何度も仰っていて、不安だった気持ちが少なくなりました。今日の学びを生かし、失敗を恐れずたくさん真似をしながら授業をしていきたいと思いました。ありがとうございました。

## 2 「養護教諭の実務・栄養教諭の実務」

養護教諭・栄養教諭にとって、4月は慌ただしく始まり、健康診断や給食実施に向けてすぐに取り組まなければなりません。今回はその実務を具体的に学びました。受講者は、取り組まなければならないことやシステムの操作などのイメージをしっかりと持つことができました。

### 〈受講者の声〉

- 今日は佐藤先生と菅原先生に養護教諭のマルチな仕事内容を丁寧に教えてもらって、分かりやすかったです。私は今まで看護師として働いていたので、仙台市の健康診断は、一般の健康診断のほかに独自の健康診断項目があること等、自分の息子の保健調査票や健康診断の結果など思い返しながら聞いていました。私も先生方と一緒に養護教諭として、これからの未来を担う子供たちが心身ともに健康で生活できるように関わっていきたく強く思いました。
- 一対一で質問や疑問など解消いただき、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。一人職で仕事ではすぐに質問できる方がいないため直接教えていただき理解も深まりました。お忙しい中ありがとうございました。



第8回「子どもたちとの出会いに向けて～プレゼミナール閉講にあたって～」は、令和5年3月4日（土）開催予定です。11月に始まったプレゼミナールも最終回となります。教育委員会や小中学校の校長先生からのメッセージ、同期の仲間との情報交換等により、プレゼミナールの「手応え」を受講者全員で確かめていきたいと考えています。